

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -----)

事業所番号	0690800297		
法人名	社会福祉法人正覚会		
事業所名	グループホームライフケア黒森		
所在地	山形県酒田市黒森字葎葉山54-10		
自己評価作成日	平成28年11月 1日	開設年月日	平成26年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が「心地よい感覚」を持ち、生活できるよう支えていくことをコンセプトの中の一つに掲げ、ご利用者は勿論職員も笑顔の多い職場となっています。心地よい感覚を持って頂けるように、認知症緩和ケアの取り組みとして「学習療法」を取り入れており、現在ご希望のあるご利用者を対象に提供しています。また、今年度よりご家族宛に「グループホーム便り」を発行し、事業所の取り組みや情報を発信しご家族とも関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学習療法は利用者の認知機能の維持・向上への効果だけでなく、職員が利用者の思いを把握する機会となったり、職員のコミュニケーション能力向上にも効果が表れている。また法人全体で「利用者の尊厳ある生活を考える会」を設置し、中堅職員が参加して検討を重ね、今年度その結果をまとめて法人全体で研修会を行っている。「何のためにするのか」というケアの本質を考えながら日々実践に取り組んでいる事業所であり、職員は日頃の気づきを自由に出し合い、柔軟に対策を考えていこうとする職場風土があり、笑顔の多い事業所となっている。今年度は、自家菜園を整備して利用者とともに野菜の栽培や収穫を楽しんだり、「グループホーム便り」を年4回作成して家族へ配布するなど情報発信にも努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 28年 11月 21日	評価結果決定日	平成 28年 12月 15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載しま

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の数箇所に事業所コンセプトに掲示し、全職員の視覚に届く様にしている。また、会議等でコンセプトの共有や判断に困ったときの判断基準となることを説明し実践につなげている。	事業所コンセプトを事業所の見えるところに掲示するとともに申し送り時に唱和するなどして「利用者が心地よい感覚を持ち、生活できるように支えていく」という理念の実現に努めている。また日々のケアにおける問題解決にあたって、コンセプトに沿って振り返りを行うなど、個別ケアの指針として常に念頭に置いた実践を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食事作りの際など、地域の商店で買い物を行ったり、地域行事(運動会や敬老会)に参加するなどして地域と交流を持っている。法人で開催している夏祭りにも地域より沢山の方が来所しており、楽しい交流が図られている。	地域行事(運動会・敬老会)への参加、法人行事(夏祭り等)への地域住民の参加、中学生の職場体験、保育園児のハロウィンパレード、地域商店での買い物など、事業所コンセプトに掲げた「地域の方々との交流を大切にすることの実現に努めている。また、法人広報誌を地域に全戸配布しているが、今後は「グループホーム便り」の回覧を計画しており情報発信にも積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症緩和ケアとして取り組んでいる学習療法について広報等で情報を発信したり、施設見学者や中学生の職場体験等でも認知症の方の理解が深まるよう対応している。また、今年度は学習療法実践シンポジウムが大阪で開催され、当グループホームでの取り組みや実践効果の事例の発表を行った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を有効に活用し、事業計画や実績報告や活動内容を報告し、委員からの意見を聞きながら運営に活かしている。	市や地域包括の職員、民生委員、家族代表などが参加して2か月に1回開催している。事業所の行事や地域との交流などをスライドを用いて説明するなどの工夫を行っている。今後、学習療法の実施状況及び効果についての報告を予定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での情報提供や運営に関し疑問点がある場合は、市町村担当者に電話や直接出向き指導を受けたり、案内文書等は電子メールでのやり取りを行っている。	市職員の運営推進会議への出席の他、市サービス事業者連絡協議会や制度改正等の説明会、介護相談員の定期的来訪など行政との情報交換の機会が確保され、協力関係が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する研修会を内部で開催し、身体拘束をすることでおきる弊害等の理解に努めている。また、毎月開催している運営会議で、法人全体の身体拘束に関する状況を把握している。現在、施錠に関しては、グループホームだけでなく法人全体の課題として対応方法を検討しており、施錠を通してご利用者の尊厳ある生活を考える研修会も全職員対象にて実施している。</p>	<p>法人内には身体拘束防止委員会があり、身体拘束廃止宣言を掲げて年度当初には研修会を実施しながら身体拘束をしないケアの実践に努めている。施錠について法人全体の課題として「利用者の尊厳ある生活を考える会」を設置して検討を行い、その結果について研修会を開催し職員全員への周知を図っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年度当初に法人内の社会福祉士より全法人職員に対し制度についての研修会が開催されており、理解を深め日々の介護に活かしている。また、そのような事案のニュースが出た際は、申し送りを利用して注意喚起を行っている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>年度当初に法人内の社会福祉士より全法人職員に対し制度についての研修会が開催されており、理解を深め日々の介護に活かしている。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に直接ご家族と管理者が面談する機会を設け、事業に関する説明や質問のやり取りを行い、ご家族が納得して頂いた上で、重要事項説明書及び契約書の説明・同意・契約している。</p>	/	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者・ご家族から直接の話や聞いたり、年に2回、満足度調査アンケートを実施しサービスの質を向上に努めている。またその結果をご家族にも公表している。</p>	<p>面会時など日頃から家族との会話に努めるとともに、学習療法などを通して利用者の意見や要望を聞き取ることに努めている。特に、利用者の生活状況の写真をまとめた「思い出アルバム」を個別に作成し、面会時に家族に紹介することでコミュニケーションが取れやすくなったなどの効果が出てきている。また満足度調査アンケートを実施して意見や要望を聞き取り、出された意見について事業所及び法人運営会議で検討して書面で家族に回答している。さらに前回の目標達成計画に掲げた「家族への情報発信」として、今年度から年4回「グループホーム便り」を作成して家族に配布している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が個人面談する機会があり、意見や提案を聞くことができている。また定期的に事業所会議を開催しており、意見を反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で人事考課制を導入し、自己評価による一次考課と役職職員による二次考課の総合評価を基に法人事務局長と面談する機会が年1回ある。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でキャリアパス制度を取り入れ、経験年数に応じた研修プログラムを実行している。また、外部研修も受講している。	キャリアパス制度が導入され、職員の経験年数などに応じた研修派遣など計画的に人材育成がなされている。研修としては 年度当初に権利擁護・虐待防止・事業計画の研修会があり、さらに感染症対策などの法人全体の研修、認知症ケアなどの内部研修、外部研修への派遣など多彩な研修が企画されている。また人事考課では自己評価及び管理者や法人事務局長との面談の機会も設けて働きやすい環境整備にも努めており、職員が気付いたことを自由に出し合って対応策を考える職場環境となっていることからケアの向上やスキルアップにつながっている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会へ入会している。また、酒田市サービス事業者連絡協議会「地域密着型サービス事業所部会」にも所属しており、各種研修会や他施設との情報交換を行っている。	山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会研修会への参加とともに、今年度は管理者が役員となり他事業所との情報交換や交流の機会となっている。また酒田市サービス事業者連絡協議会地域密着型サービス事業所部会の研修会に参加し、情報交換やネットワークづくりに努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と管理者が事前にお会いし、本人の状況や要望等を情報収集し、良好な関係づくりに努めている。また入居前に24H事前聞き取り表の記載をご家族に依頼することで、入居後も本人の生活リズムが継続できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と管理者が事前にお会いし、ご家族の要望を十分にアセスメントし、必要な支援方法を共に考え介護計画を作成している。また入居前に24H事前聞き取り表の記載に関する目的を説明し、協力を頂くことでご家族が安心できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	的確なアセスメントを実施し、必要としている事、サービス内容を見極めながら、相談の内容によっては法人内外の他サービスへの連絡調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活における役割が入居後も継続出来るよう、職員も協力し入居者一人ひとりに合わせた役割を支えている。また、自らすすんで皿洗いやカーテン開けをして下さるご利用者もいる。その都度感謝の気持ちを伝え関係を気付いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との関係が断ち切らないよう、電話やメール等面会時に状況報告をし、連絡を密に図っている。また、個別ドライブとして入居者・ご家族と担当職員が一緒に出かけ外食等をし家族の絆を大切にしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者との会話の中から親しい友人や、馴染みの場所を聞き、関係が断ち切らないよう継続して出かけられるよう努めている。入居者の親類や知人、友人が面会に来た際には、気軽に外出等出来るよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が日々関わり合えるよう、1人ひとりの性格を理解し、職員も入居者の輪に入りながら談笑したり、食器洗いやカーテン引き等の役割を促すことで、入居者同士がお互いに助け合い、支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を断ち切らないよう、必要に応じて相談や助言を行なうよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いやその人らしい暮らし方を把握・尊重し、できる限り本人に決定権を持っていただいている。日常会話や表情・仕草等からご利用者の思いや意向を把握するよう努めている。意向の確認が困難な場合は、ご家族も交えながら相談し、入居者本位に努めている。	入居時のアセスメントで生活歴や日常の生活の仕方を聞き取り、本人・家族の思いを把握することに努めている。入居後は24時間シートや毎日の活動、日常生活や学習療法を通して本人の思いを把握し、職員間で情報を共有しながら利用者本位のケアの実践につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族や面会者の方々との関係を大切に、生活歴や趣味・毎日の習慣等の把握に努めている。また、学習療法実施中のコミュニケーションを通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プランの変更時や状態の変化にあった際は、24Hシートを担当を中心に更新している。また、日々の口頭とパソコンの申し送り等で状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、月に1回担当職員が計画の進捗状況を確認している。また、入居者及び関係者との連携の中で必要となればサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しができるようにしている。	担当が毎月モニタリングを実施し、介護計画の見直しは年1回行っているが、変化に応じて随時見直しを図っている。計画作成に当たっては普段から家族の意見を聞き取りながらサービス担当者会議で検討し、介護計画見直し時に家族に説明して同意をいただいている。管理者は計画作成手順書を職員に提示して職員全員が計画作成を理解して参加できる仕組みを整えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は日々パソコン入力しており、特に重要な項目は口頭・パソコンの申し送りを使用し職員間での情報共有が可能。見直しが必要な際には、随時、ミーティングなどで報告し検討している。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店に買い物に行ったり、コミュニティーセンターでの敬老会に参加し、地域の人との関わりを大切に、地域にある社会資源を活用している。また、社会福祉協議会にて、ご利用者の権利擁護や金銭管理支援等で個別ケースにて関わりがある方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医に関しては馴染みの関係が継続できるよう本人・家族の意向を確認し、通院を無理のない範囲でお願いしており、本氏の状態・体調等を書面に出し、看護職員を中心に医療機関や家族と連携を図り対応している。</p>	<p>利用者・家族の希望するかかりつけ医として利用者が、特養の嘱託医に切り替える方もおられる。通院介助は原則として家族が行い、利用者の状況を書面で医師に情報提供し結果については個人記録に記載するとともに家族へ報告して情報の共有化を図っている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の生活で健康管理や、身体的な変化があった場合は法人の看護師へ速やかに状況を報告し、指示を仰いでいる。必要に応じて主治医へ情報提供するなど適切な対応に努めている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご家族や医療関係者と連絡を密にし、情報共有に努めている。また、入院中は面会に出向き状態を確認すると共に地域医療連携室と連携を図りながら、退院後の体制作りにも努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に家族に事業所の対応可能範囲を説明し、共同生活が困難になった場合は本人・家族と相談しながら今後の生活を検討している。</p>	<p>事業所の対応可能範囲については入居時に説明し、家族の同意を得ている。重度化した場合は本人・家族と医師・職員が話し合い、方針を共有しながら対応している。希望に応じて併設の同一法人施設と連携を取りながら、利用者が最期まで安心して生活することができる体制が築かれている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内で救急救命講習を行っている。また、急変、事故、夜間帯の対応などマニュアルを作成し、速やかに対応できるように努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本体と合同の消防計画を作成し要綱に従って年1回の訓練を行っている。その他に年1回地域と合同訓練を開催している。その中で地域住民に対し福祉用具(車椅子・ストレッチャー・杖等)の使用法や留意点を説明している。	消防署の協力を得ながら法人全体の訓練並びに地域の防災訓練との合同訓練の計2回の訓練を行っている。その中で地域の方に福祉用具の使い方などを説明しながら地域との協力体制を築いている。他に事業所独自の避難訓練や夜間想定訓練なども実施している。また広域災害に備え法人として食料等の備蓄も行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員倫理規程を定め、年度当初に尊厳やプライバシーについて研修を行っている。また、メディアに取り上げられたことや、日々の業務で職員が感じたことなどをミーティング等で情報共有し、個々の言葉かけについて振り返っている。	年度当初に職員倫理規定に基づく研修を行い、尊厳やプライバシーの重要性について職員が再確認できるよう努めている。また報道事例や業務の中での事例をもとにミーティングで話し合っ振り返りを行い、情報を共有し、一人ひとりの人格の尊重とプライバシー確保に留意したことばかけやケアの実践に努めている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や言葉等を観察し、入居者の思いを聞きながら自己決定できるよう促している。また、個別ドライブにてやってみたい事、行ってみたい所等希望を確認しながら実施している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整える為の目安の時間帯はあるが、入居者の体調や希望に応じて食事や入浴の時間を変更している。又、諸活動への参加も入居者の自由とし、外出の際は希望を優先している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力も得ながら、身だしなみへの配慮が行われている。散髪等に関しては、行きつけの理容室へ行ったり、施設に来所していただくなどして対応している。服装は、衣替えを行い四季に合った服装が着衣できるようにしている。化粧品のある方は外出や行事の際等さりげなく声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の調理は行っていないが、食事の準備や盛り付けを入居者が自主的に行っている。本体特養と一緒にバイキング食や弁当に詰め雰囲気を変えたり、また、事前に個々の希望を確認し選択食を月数回行ったり、希望を聞き外食支援を行っている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、調理は外部委託事業者が行っているが、盛り付けや配膳・下膳などは職員とともに利用者も参加しながら食事を楽しんでいる。また毎月1回は特養施設に出向いてバイキング食や弁当形式の食事を楽しんでいる。その他季節食(孟宗汁、芋煮、寒鰯汁等々)は買い出しから調理までを利用者が職員とともに行って普段と違う楽しみを味わうなど様々な食事を楽しむ機会を作っている。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人内に管理栄養士も配置されており、栄養面で考慮された献立となっている。また、チェック表を使用し、食事・水分量を把握に努めており、体調変化による食事形態の変更や、コーヒー、紅茶、昆布茶、緑茶等嗜好に合わせた飲み物を準備し、水分確保に努めている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の歯磨きや義歯洗浄の声掛けをしている。その方に合わせ誘導をし必要時は介助をしている。また、歯科の往診対応も可能となっている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けを行うことで、トイレでの排泄が増え失禁回数が減少した入居者もいる。また、自立されているご利用者にも、リハビリパンツの交換を促し、清潔が保てるようにしている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し個々に対応した声かけ誘導を行ったり、また法人が取り入れているスウェーデン式個別排泄ケアシステムの考え方である「気持ちよさを重視」した排泄ケアに取り組みむことで、失禁回数が減少するなどの改善がみられている。各居室にトイレが設置されており、他人に気兼ねせずに家にいるような感覚で使用できる環境になっている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	同一法人内に管理栄養士も配置されており、栄養面でも考慮された献立となっている。また排便チェック表を活用し、排便周期の把握ができるようにしている。便秘気味な方には、水分摂取を促したり、予防体操を行ったり、ご家族とも情報を共有し、便秘の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は一応決めてはいるものの、入居者の状態や希望に応じて入浴して頂けるようにしている。	利用者の希望や体調に合わせ、また行事などを考慮しながら最低週2回の入浴を行っている。入浴したくない利用者には時間や声掛けなど工夫しながら入浴を楽しめるように支援し、清潔の保持に努めている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮し、休息の声掛けを行っている。一人ひとりの起床・就寝時間に合わせ、ゆっくり過ごして頂けるよう対応している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を通院後必ず把握し、薬の変更時には連絡を頂けるようご家族にもお伝えし、服薬介助を行い症状の変化の確認に努めている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の会話から生活歴や趣味などを把握している。また、一人ひとりにあった生活の中での役割がある事で張り合いとなり、満足感が得られるように支援している。今年度よりグループホーム敷地内の畑にて作物を育て収穫等を通して楽しみや達成感を感じて頂けるように取り組んだ。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じていただけるドライブや外出も積極的に行っている。近所の散歩や買い物などの日常的な外出も職員と一緒にしている。また、個別ドライブとして、入居者一人ひとりに行きたい場所・食べたいもの等を事前に聞き、担当職員と外出している。	季節ごとのドライブや職員・家族と一緒に個別ドライブ、季節の料理づくりの買い出し、買い物、一時帰宅、散歩など、多様な外出支援を行っている。また今年度は自家菜園を整備して茄子、トマト、ジャガイモ、さつまいも等を植え、栽培の楽しさ、収穫の楽しさを感じられるよう支援している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い金を金庫で管理し対応している。個別ドライブや外出時など、できる限りご利用者が支払いやおつりを貰う事ができるよう対応している。小遣い帳も活用しご家族にもお知らせしている。また、残金や何を購入したかを一緒に確認し、サインをもらっているご利用者もいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話連絡ができる対応ができています。また、遠方の娘様と手紙のやり取りをしている入居者もあり、対応ができています。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建設時にインテリアデザイナーのアドバイスを頂き開所した施設でもあり、自宅のようにくつろげるような心地良い空間となっている。また、季節感を感じて頂けるように、季節にあった物を折り紙や画用紙等で職員と一緒に製作し、壁面の装飾を行っている。今年度よりグループホーム敷地内の畑に作物を植え、ご利用者よりアドバイスをいただいたりと一緒に水やりや収穫を行っている。	高台にある施設であり、共有スペースの広い窓からは山々など自然風景を眺めることができ、また格子模様の床やモダンで柔らかい色使いのソファやテーブル・椅子が配置され居心地よく過ごすことができるリビングとなっている。温度・湿度も適切に調整され、季節を感じられるような装飾をさりげなく飾り、落ち着いた雰囲気となっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファがあり、ご自分の好きな場所に座り、テレビを観たり、気の合う方同士で過ごす事ができるよう椅子の配置等検討されている。また、居室で一緒におやつを召し上がられたり、談笑しながら過ごす方もいる。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族に説明し、理解と協力を求めており実際にダンスやテレビ・ラジオ・椅子等を持ち込んだ入居者が数名いる。	居室に洗面台とトイレが整備されており、家にいるような感覚で過ごすことができている。利用者が使い慣れた物や愛着のある物等を持ってきていただき、居心地よく過ごすことができるように支援している。また、壁の一つの面とカーテンが淡い緑色となっており、認知症高齢者が認識しやすいような工夫もなされている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設置し自室の認識ができるよう配慮している。また、居室の入り口にフックを設け自室を認識できるような環境を整えている。			